

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援 クレパス		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 20日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 20日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○訪問先施設評価実施期間	2026年 1月 20日		～ 2026年 1月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	8施設	(回答数) 6施設
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者および訪問先施設と出来る限りの話し合いを行い情報共有に努める。	保護者および訪問先施設と、支援の目的や内容について事前・事後に丁寧な説明を行い、共通理解の形成を意識した連携に取り組んでいる。	情報共有の方法について職員間で確認を行い、支援内容の整理や記録の活用を通して、より円滑な連携につなげていく。
2	訪問先施設への配慮は最優先事項として行っている。	子どもの発達段階や特性を踏まえ、訪問先施設の状況に配慮した助言・支援を行うよう努めている。	支援事例の振り返りを継続し、支援の質の維持および向上を図る。
3	支援内容の振り返りを行い、スタッフ間で共有している。	職員間で支援内容の確認や振り返りを行い、適切な支援の提供に向けた意識づけを行っている。	研修等への参加を通じて、専門性の向上と安定した支援提供を目指す。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	午後は放課後デイ指導員として従事しているため、スタッフ間の情報共有の時間の確保が課題。	業務の状況により、職員間の情報共有や振り返りの時間確保が課題となる場合がある。	業務内容の整理や記録方法の工夫を行い、効率的な情報共有に努める。
2	訪問先の受け入れ状況で支援員の動きが変わっている。また先生によって受け入れが違うため、理解度や情報共有に差が出ている。	訪問先施設によって、事業の役割や支援内容の理解に差が生じる場合がある。	事業内容や支援目的について、引き続き丁寧な説明を行い、理解促進を図る。
3	支援の経過や成果が分かりにくい。理解が得られていないことがある。	支援の経過や成果について、より分かりやすい整理が求められる場合がある。	支援目標や経過を整理し、保護者および訪問先施設へ適切に共有できるよう工夫する。